

「^お上山城」からのたより 早春・第94便

江戸の大名屋敷



上:「御江戸絵図(部分)山城屋平助板」

右:現在の一ノ橋付近からみた松平山城守上屋敷跡)

江戸時代、参勤交代制により諸大名は一年置きに江戸に在府しなければなりません。そのため幕府は大名に対し江戸城を取り囲むように屋敷地を配分しました。この摺物には江戸時代末期頃の大名の屋敷割と寺社が細かく記載されています。大名屋敷は多くが上・中・下の三屋敷が与えられ、この絵図では上屋敷が■、中屋敷が▲、下屋敷が●で示されています。上屋敷は藩主が住む所であると同時に、その藩の政務をつかさどる役所でもあります。中屋敷には後継ぎや御隠居が住む屋敷として、下屋敷は火災などで罹災した場合の避難用として、また別荘としての機能も果たしていたようです。

ちなみに、幕末まで上山藩の大名であった藤井松平家の上屋敷は麻布、中屋敷は本所、下屋敷は品川大崎村にありました。上屋敷は地下鉄麻布十番駅近く一の橋近辺にあり、摺物で見ると小さいですが、敷地面積は六千三百坪以上もありました。近くには薩摩藩の上屋敷も見受けられます。現在はマンションなどのビルが建ち並んでいて昔の面影はありませんが、藩邸前の川筋や裏通りの寺社などにその名残をみることができます。

東京に行かれたら、江戸時代に思いを馳せながら大絵図や切絵図を片手に藩邸跡巡りをするのもお勧めです。

(公財)上山城郷土資料館 学芸員 大場 浩子

【常設展示室から】今月から二階郷土の街道と宿場コーナーを一部展示替えします。